

&lt;第91回調査&gt;

2016年12月27日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2016年12月13日(火)13:00～2016年12月20日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。  
今回の有効回答数は908件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

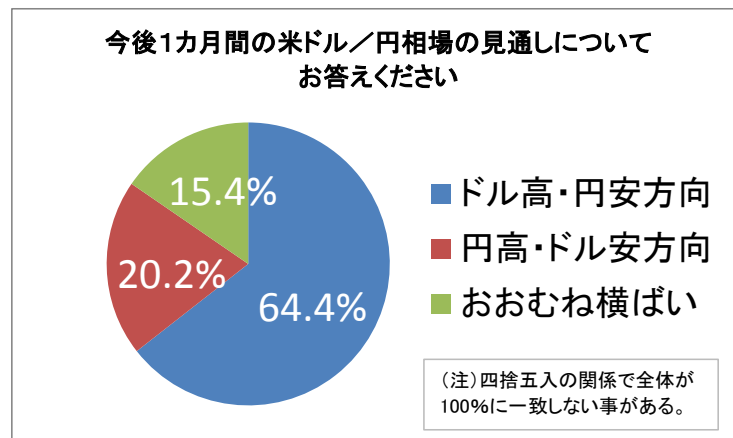
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第91回調査結果略報：個人投資家は米ドル強気予想を維持】

### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

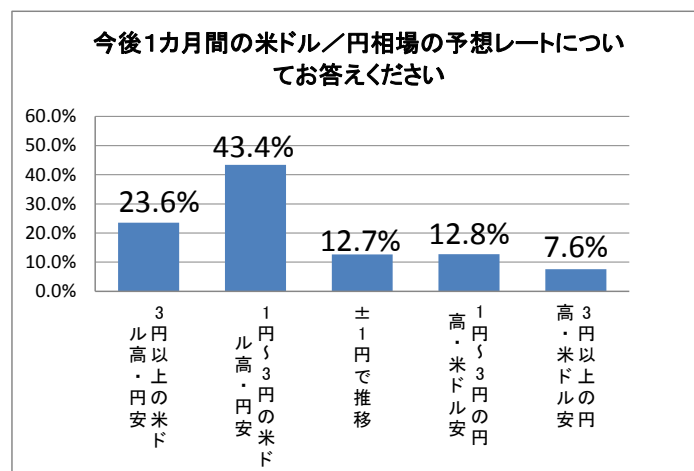
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が64.4%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は20.2%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△44.2%ポイントとなり、約1年ぶりの高水準を記録した前回の△46.0%ポイントからほぼ横ばいの「高止まり」となった。調査期間中のドル/円相場は、約10カ月ぶりの高値となる118.60円台まで上昇した後、一時116.50円台まで小反落するなど終盤に伸び悩んだが、個人投資家の米ドル強気(円弱気)の姿勢は揺らがなかったようだ。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が43.4%と最も多く、「3円以上の米ドル高・円安」が23.6%と続いた。そして「1円～3円の円高・米ドル安(12.8%)」、「±1円で推移(12.7%)」、「3円以上の米ドル高・円安(7.6%)」と続いた。前回と同様に「3円以上の米ドル高・円安」を予想した向きが2割を超えたのが印象的であり、ヒストグラムの形状も米ドル高・円安側にはっきりと傾いたままだ。調査期間中の米ドル/円相場の値位置から考えて、1ドル=120円の突破は時間の問題と見ている向きが少なくないようだ。

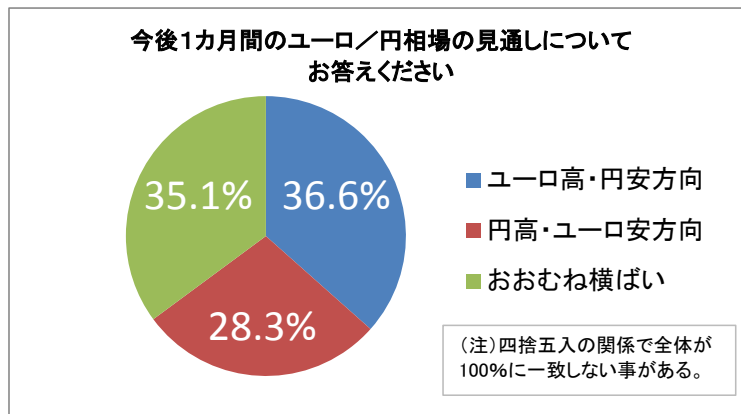


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

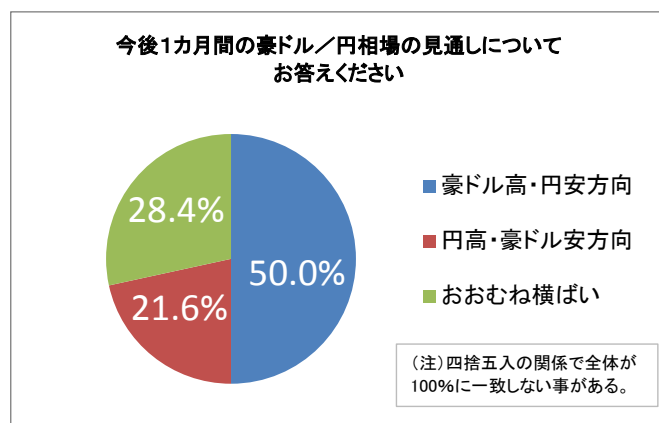
### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が36.6%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が28.3%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は $\Delta 8.3\%$ ポイントと2カ月連続のプラスDIとなったが、プラス幅はやや縮小した。調査期間中のユーロ/円相場は、米ドル/円に引っ張られる形で約半年ぶりに124.00円台まで上昇したが、ユーロ/米ドルの軟調推移が重しとなり伸び悩んだ。こうした値動きの中で、ユーロ強気(円弱気)に傾ききれない投資家が多かったという事だろう。過去のユーロ円予想DIの推移はP7-8に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が50.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は21.6%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は $\Delta 28.4\%$ ポイントとなり、前々回( $\Delta 20.3$ )、前回( $\Delta 25.8$ )に続き3カ月連続でプラスDIを維持した。調査期間中の豪ドル/円相場は、年初来高値を更新して87.50円台まで上昇したが、その後84.60円台まで失速。それでも個人投資家の間に豪ドル先安感が台頭する事はなかったようだ。むしろ、調査期間中の反落によって上昇余地が広がったと捉えた向きが増えたのかもしれない。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

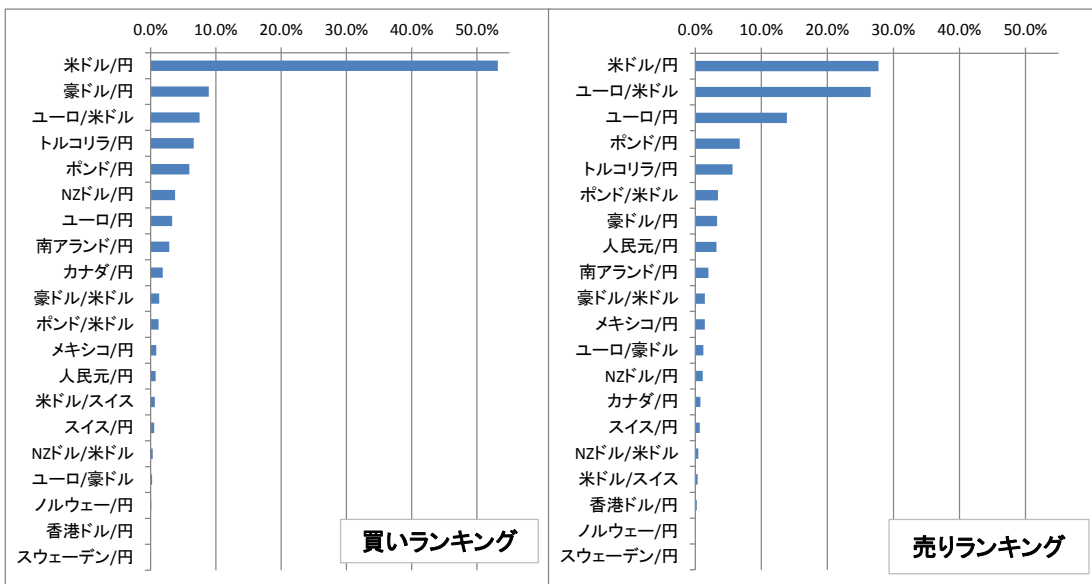
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください**

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が53.2%の回答割合を集めて1位であった。以下、2位に豪ドル/円(8.9%)、3位にユーロ/ドル(7.5%)、4位トルコリラ/円(6.6%)、5位ポンド/円(5.9%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位が米ドル/円(27.8%)、2位ユーロ/ドル(26.5%)、3位ユーロ/円(13.9%)、4位ポンド/円(6.7%)、5位トルコリラ/円(5.6%)であった。

「買い」で注目のランキングは米ドル/円が2位以下に圧倒的な大差を付けて51カ月連続で首位の座をキープした。米ドル/円は「売り」で注目のランキングでも2カ月連続で1位となっており、個人投資家の興味・関心を独占している。なお、11月度店頭FX市場における米ドル/円の取引金額は429兆円に上り、総売買高530兆円の8割以上を占めている(※)。個人投資家の取引が実際に米ドル/円に集中している事がわかる。その他、「売り」で注目のランキング5位にトルコリラ/円が入ったのが印象的だ。なお、トルコリラ/円の「売り」ランキングの推移は前々回8位(1.8%)、前回6位(4.2%)とじりじり上昇している。個人投資家は通常、高金利通貨売り・円買いのポジションを避ける傾向にあるが、高金利を支払ってでもトルコリラを売りたいと考える向きが増加中である様子が最近の調査で浮かび上がった。

※出所: 金融先物取引業協会 店頭FX月次速報



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

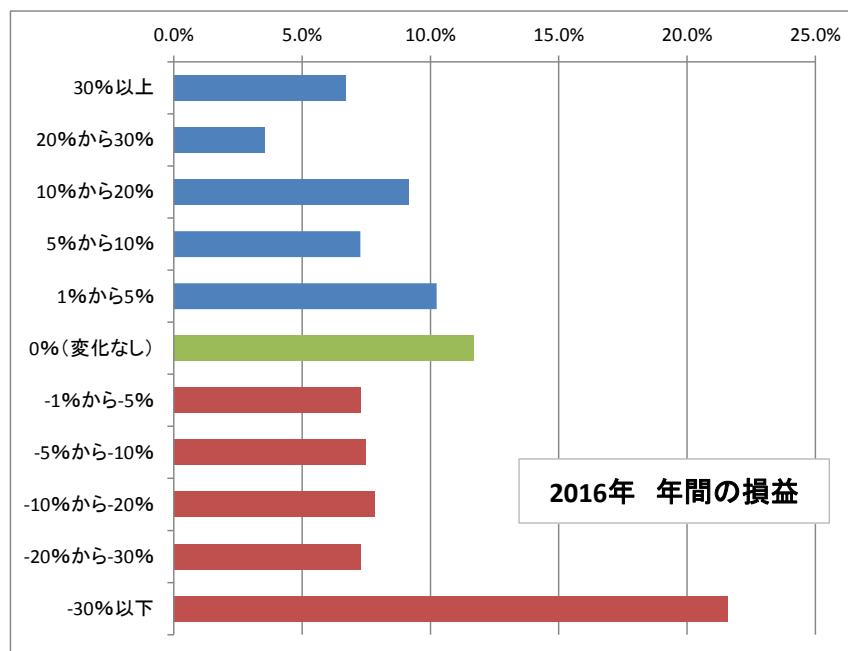
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6:2016年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。また、損益について最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書き下さい。

今回の特別質問として、「2016年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか？」と尋ねたところ、最も多かったのは「-30%以上」の21.6%であった。続いて「0%(変化なし)」が11.7%、「1%から5%」が10.2%、「10%から20%」が9.1%、「-10%から-20%」が7.8%であり、「+30%以上」と回答した向きは6.7%であった。また、「利益」と「損失」に分けて見ると、36.8%の回答者が利益を計上したとした一方、51.5%の投資家は損失が出たと回答した。

なお、今年7月に2016年前半の収益について同様の質問をした際は「利益」29.4%、「損失」57.0%の割合であったことから、年後半に損失を取り戻した投資家も少なくなかったと見られる。ただ、昨年12月に2015年の収益について同様の質問をした際は「利益」42.1%、「損失」46.9%の割合であった。昨年に比べると今年の個人投資家の成績は芳しくなかったといわざるを得ない。

その損益発生について最大の要因と思われるものを自由記述形式で尋ねたところ、「利益」を計上したとした向きからは「無理な勝負を避けて、トレンドが出たと感じた時だけ取引」「徹底的にリスクヘッジをした」などと取引手法の面に言及するケースが目立つとともに、「終盤の(トランプ)円安でプラスになった」などと、年後半の相場環境の好転を挙げる声もやはり多かった。一方、「損失」が出た向きからは「ブレグジットで読みが外れた」「(米大統領選で)トランプ氏勝利後のドル高に逆張り」「損切りが上手くできない」などとする回答が目についた。

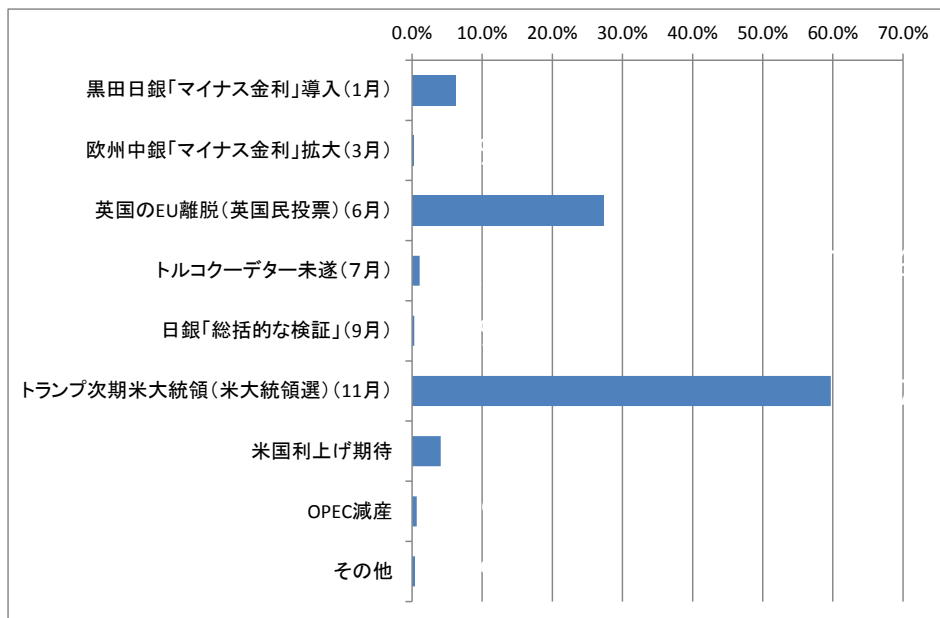


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問7:2016年を代表する、為替市場へ影響を及ぼしたトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)**

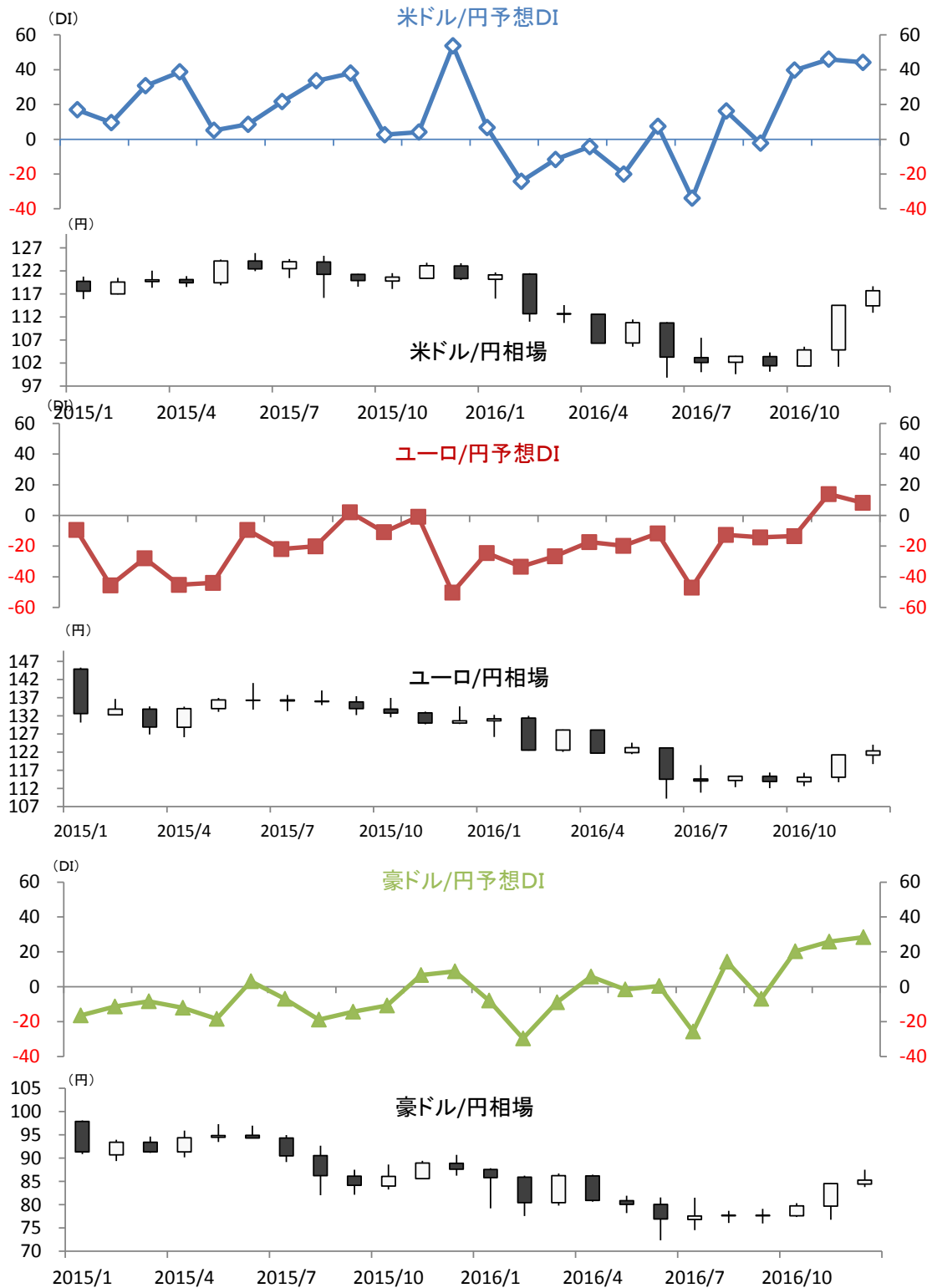
今回のもうひとつの特別質問項目として、「2016年を代表する、為替市場へ影響を及ぼしたトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「トランプ次期米大統領(米大統領選)」を選んだ割合が59.7%に達した。続いて「英国のEU離脱(英国民投票)」が27.3%となり、この2つに9割近くの回答が集中した。以下、「黒田日銀『マイナス金利』導入(6.2%)」、「米国利上げ期待(4.1%)」と続いた。英国民投票にしても米大統領選にしても想定外の出来事であり、いずれも市場のショックは小さくなかったが、その後の為替相場の展開に大きな影響を及ぼしたという点では米大統領選に軍配が上がるという事だろう。大統領選前は「トランプ・リスク」として円高・株安が警戒されたが、いざ当選が決まると「トランプ・ラリー」と化してドル高と同時に世界的な株高・債券安(金利上昇)が進んだ。米大統領選が、金融市場の風景を大きく変えてしまったと言える中でのこの回答結果は当然と思われる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】**



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第91回目となりました。調査開始から7年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

|       |     | 米ドル／円 |      |       | ユーロ／円 |      |       | 豪ドル／円 |      |       |
|-------|-----|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|
|       |     | 米ドル高  | 米ドル安 | DI    | ユーロ高  | ユーロ安 | DI    | 豪ドル高  | 豪ドル安 | DI    |
| 2015年 | 1月  | 39.3  | 29.7 | 9.6   | 15.1  | 60.6 | -45.5 | 26.2  | 37.5 | -11.3 |
|       | 2月  | 46.8  | 16.1 | 30.7  | 19.7  | 47.5 | -27.8 | 26.4  | 34.8 | -8.4  |
|       | 3月  | 52.3  | 13.6 | 38.7  | 15.2  | 60.5 | -45.3 | 21.8  | 33.9 | -12.1 |
|       | 4月  | 31.4  | 26.3 | 5.1   | 15.1  | 59.0 | -43.9 | 23.4  | 41.9 | -18.5 |
|       | 5月  | 29.1  | 20.5 | 8.6   | 31.0  | 40.4 | -9.4  | 32.2  | 29.1 | 3.1   |
|       | 6月  | 43.5  | 21.9 | 21.6  | 25.4  | 47.2 | -21.8 | 24.3  | 31.3 | -7.0  |
|       | 7月  | 49.1  | 15.5 | 33.6  | 23.6  | 43.7 | -20.1 | 22.8  | 41.7 | -18.9 |
|       | 8月  | 51.1  | 13.1 | 38.0  | 30.9  | 28.8 | 2.1   | 24.1  | 38.5 | -14.4 |
|       | 9月  | 37.1  | 34.5 | 2.6   | 24.9  | 35.8 | -10.9 | 29.9  | 40.7 | -10.8 |
|       | 10月 | 30.3  | 26.2 | 4.1   | 30.3  | 31.1 | -0.8  | 39.6  | 33.0 | 6.6   |
|       | 11月 | 67.3  | 13.6 | 53.7  | 11.1  | 61.4 | -50.3 | 34.4  | 25.6 | 8.8   |
|       | 12月 | 43.8  | 37.1 | 6.7   | 19.7  | 44.1 | -24.4 | 30.5  | 38.4 | -7.9  |
| 2016年 | 1月  | 27.3  | 51.5 | -24.2 | 19.2  | 52.6 | -33.4 | 22.8  | 52.5 | -29.7 |
|       | 2月  | 34.7  | 46.3 | -11.6 | 22.5  | 49.0 | -26.5 | 32.3  | 41.3 | -9.0  |
|       | 3月  | 33.3  | 37.6 | -4.3  | 24.8  | 42.1 | -17.3 | 37.6  | 31.8 | 5.8   |
|       | 4月  | 30.2  | 50.2 | -20.0 | 24.2  | 43.9 | -19.7 | 34.2  | 35.7 | -1.5  |
|       | 5月  | 40.8  | 33.4 | 7.4   | 22.6  | 38.2 | -11.6 | 35.7  | 35.3 | 0.4   |
|       | 6月  | 26.3  | 60.2 | -33.9 | 20.0  | 67.0 | -47.0 | 24.8  | 50.5 | -25.7 |
|       | 7月  | 48.3  | 32.1 | 16.2  | 32.1  | 44.7 | -12.6 | 44.2  | 29.8 | 14.4  |
|       | 8月  | 26.5  | 48.9 | -22.4 | 17.2  | 48.1 | -30.9 | 25.9  | 40.2 | -14.3 |
|       | 9月  | 34.5  | 36.8 | -2.3  | 23.8  | 38.0 | -14.2 | 28.4  | 35.4 | -7.0  |
|       | 10月 | 57.3  | 17.6 | 39.7  | 24.2  | 37.7 | -13.5 | 43.3  | 23.0 | 20.3  |
|       | 11月 | 65.9  | 19.9 | 46.0  | 38.7  | 24.8 | 13.9  | 47.0  | 21.2 | 25.8  |
|       | 12月 | 64.4  | 20.2 | 44.2  | 36.6  | 28.3 | 8.3   | 50.0  | 21.6 | 28.4  |

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com